

クラス番号	616	担当教員名	藤井 博之
テーマ	地域医療はどのように構築されるか		
著書・論文	川上武編著『戦後日本病人史』勁草書房, 2002年		
研究課題等	保健医療福祉キーワード研究会『保健医療福祉のくせものキーワード事典』医学書院, 2008年		
	藤井博之ほか編著『リハビリテーションとしての在宅医療』南山堂, 2011年		
藤井博之「在宅リハビリテーション PT・OT・STに何をどう依頼するか」治療, 2013年2月号			

ゼミナール概要

キーワード：地域医療 地域ケア 地域リハビリテーション 多職種協働 当事者主権

【目的】 この演習では、医療は福祉の一部であり、地域医療は地域でおこる出来事の一部であるべきだという立場をとります。地域医療の優れた実践の中には社会事業としてはじまり、発展してきた例が少なくないのです。

ところで、「地域医療」には二つのとらえ方があります。行政区画ごとの医療をどう確保するかという行政的視点と、自分たちの住む・働く地域でどのように医療を充実させるかという運動的視点です。ここでは主として後者の立場で、地域医療の拠点がどのように構築されていったかを考えていきます。

もちろん、福祉と異なる医療の論理や力が働くことも事実です。そこに知的に切り込むことは、将来医療福祉で働こうとする方はもちろん、医療事業体や医療従事者とどう向き合うかに関心のある方にも、よいテーマになると思います。

【内容】

切り口として、医療技術と社会福祉援助、在宅医療・地域リハ（Community Based Rehabilitation：CBR）と「地域包括ケア」、農村医療と都市の医療、当事者・医療者関係、「多職種協働」、地域包括ケアなどが考えられます。これらに限らず、受講者と講師の問題関心に沿って、各自のテーマを一緒に探します。

【方法】

文献購読、ネット等メディアを使った情報収集、本学大学院の「ケースメソッド」教材を使ったディスカッション、フィールド調査・インタビューなどの方法で、「地域の一部としての地域医療」のダイナミズムに迫ります。

また、他学部・他大学の医療系の学生や現場で働く人たちと一緒に学ぶ機会をつくり、IPE（Interprofessional Education）の手法を取り入れる予定です。

毎週のゼミだけでなく、フィールド調査、夏や春の合宿への参加が必須です。

【授業計画】

◎3年生前期：

- ・ 講義、文献購読、ケースメソッド、現場見学に取り組みます。
- ・ 早期から問題関心別サブグループを作り、サブゼミとゼミ全体でそれぞれグループワークを行います。
- ・ 夏休み、またはそれより前にゼミ合宿を行い、そこで提出する卒論研究計画書について指導します。

◎3年生後期：

- ・ 一人一人が卒論について、文献調査、調査に取り組み、ゼミで報告・討論します。
- ・ ゼミ全体で、病院見学などのフィールド調査に行きます。
- ・ 春休みには、ゼミ合宿を行います。

◎ 藤井が行うフィールド研究（本学「地域研究プロジェクト」や、長野県南佐久郡や佐久総合病院など）との連動で、具体的な臨床事例や拠点・地域研究の機会をつくる予定です。

担当教員からのメッセージ



本ゼミは、全員が卒論を提出し、就職または進学し、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格することを目標にします。そのために、卒論は4年生の9月までに完成させていただきます。夏休みや春休みの合宿の参加も必須です。

2015年の春に本学の専任教員になり、3年目のゼミ生を受け入れます。私の経歴の大半は、臨床医です。在宅医療、リハビリテーション医療を中心に、診療所やリハビリテーション病院の運営、IPEや医療や地域ケア現場のマネジメントに携わってきました。他方、医療史や医療技術論についても考えています。医療現場について関心のある方との議論を、楽しみにしています。